

平成30年度 各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	県南	学校名	奥州市立江刺南中学校	TEL	0197-39-2125
------	----	-----	------------	-----	--------------

主体的・協働的に学び続ける生徒の育成を目指した「学びをつなぐ」をキーワードとした指導実践

【今年度の目標】

- ① 「生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか」という質問に対する肯定的回答を増加させる。
- ② 「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」という質問に対する肯定的回答を増加させる。
- ③ 平日の家庭学習時間が1時間以上の生徒の数を増加させる。
- ④ 各調査において、最上位層の割合を増加させる。
- ⑤ 各教科、正答率において県平均を上回る。

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

- | | |
|--|----------|
| 1 授業におけるグループ学習の充実（「『他者の考え』とのつながり」の実現） | 【取組5年以上】 |
| 2 授業における振り返り場面の設定（「『自己の考え』とのつながり」の実現） | 【取組3年目】 |
| 3 授業と家庭学習をつなぐひまわりタイムの充実（「『家庭学習』とのつながり」の実現） | 【取組3年目】 |
| 4 学びをつなぐことによる深い学びの実現（学びをつなぐ視点からの授業改善） | 【今年度取組】 |

【具体的な取組】

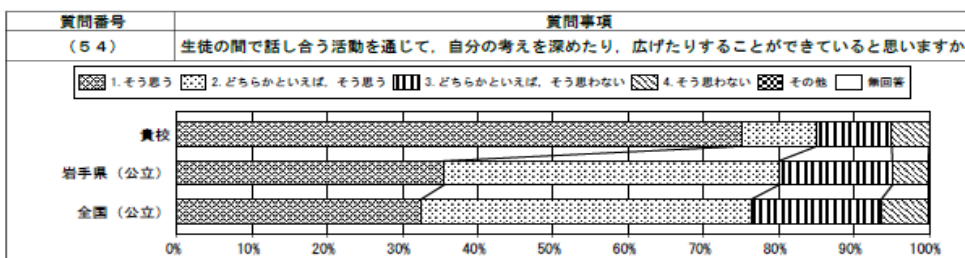
◎ 学びをつなぐ視点を意識した指導改善と整理

学びをつなぐ視点として、「自己の考えとのつながり、他者の考えとのつながり、単元を通してのつながり、単元間のつながり、他学年・異校種とのつながり、教科間のつながり、家庭学習とのつながり、実社会・実生活とのつながり」といった8つの視点を設定し、昨年度までの実践を整理し直し、授業（指導）改善に取り組んだ。

1 授業におけるグループ学習の充実（「『他者の考え』とのつながり」の実現）

全ての授業において4人グループを基本とした小グループでの学び合いの時間を位置付けている。自分の考えを发表或し、他者の考えを聞いたり、わからないことを聞き合ったりすることで、自分だけでは気付かなかったことに気付いたり、自分の考えを再確認したりすることができ、考えの広がりや深まりが見られた。

【H30 全国学調生徒質問紙】



生徒の学び合い



- ＜生徒の声＞
- 1年男子 わからないことを聞いて「あ～、なるほど。」と思うことがある。
 - 2年女子 グループでわからないことを話し合える。
 - 3年男子 話し合えば、色んな意見が出てくる。
 - △ 3年女子 話し合うとき、スピードが速い人がいてついていけない。

＜教師の声＞

ペアや小グループでの学習は、発問に対してなかなか答えが出ないときや自信がないときなどの「分からなさの共有」のために始めた。答えや自分の考えを他者に聞いてもらうことで安心し、それが自信となって発言にもつながっていく。今後は、疑問や分からないことが自然に共有され、「対話」から「深い学び」が生まれるように仕組みでいきたい。

2 授業における振り返り場面の設定（「『自己の考え』とのつながり」の実現）

各教科の授業において、学習を振り返り外化（Output）させる時間を設けている。学習シートに学んだことを記述したり、学習の達成状況を確認するための表現活動など、教科の特質に応じた振り返りに取り組んだ。

<生徒の記述例>

○数学 振り返りに記述する中で、既習内容とのつながりを実感することができた。

比例する量①	110~113	16	比例とは何か説明することができる 比例定数の意味が書える 身の周りの事象が比例しているかどうか判断することができる
比例する量②		22	
～ 授業の振り返り～			
今日の学習で分かったこと、分からなかったこと、疑問に思ったこと、もっと調べてみたいことを書こう。			
★今日、学習したことは何とつながりましたか？			
		他の数でいい小学校のことと同じめん 変化が y=ax	

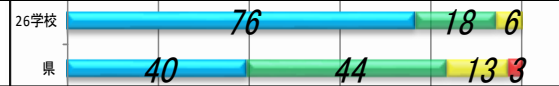
○英語 表現活動を通して、授業で学んだことを振り返り、できるようになったことを実感できた。

○表現問題
「自分がなりたい人（職業）」について説明する文を1文書きなさい。
Ex. I want to be a doctor who can help sick people.

I want to be an architect who can design many things.

【H30 県学調生徒質問紙】

普段の授業で、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。



3 授業と家庭学習をつなぐひまわりタイムの充実（「『家庭学習』とのつながり」の実現）

1日の授業を振り返り、授業内容と家庭学習の内容をつなぐ時間として、6時間目終了後5分間を「ひまわりタイム」（ひとりの学習とまわりの仲間との学習をつなぐ時間）として設定した。また、個人が取り組んだ家庭学習ノートは教科担任に提出する流れとなっている。そのため、必要に応じて教科担任から学習方法について指導することができる。さらに、ノートに自ら質問を記入し、分からない点を解決しようとする生徒が見られる。

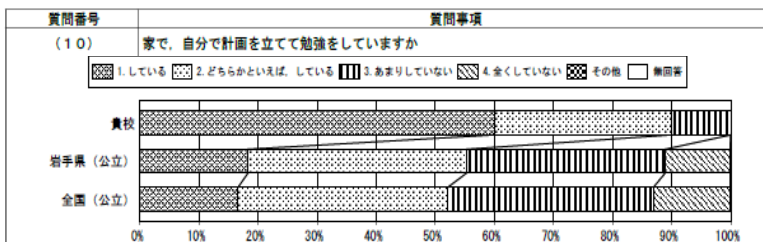
6校時が終わったら・・・

- 6校時後、自分の席で1日に使った教科書やワーク等を並べ、積み上げしましょう。
- 教科書類を見て、1時間目から授業を振り返り、その日に学習したことを確認しましょう。
- ひまわりシートを記入しながら、学習の理解度を振り返りましょう。
- その日に家庭学習で何を行うかを決め、ひまわりシートに記入しましょう。
*その日に授業を行った先生が教室に顔を出します。家庭学習のやり方等、相談したいことがある人は静かに手を挙げて質問しましょう。
- 記入後、係りの生徒（隣の席の生徒）にチェックしてもらいましょう。
- 帰宅後、計画通りちゃんと学習し、朝、登校したら家庭学習とひまわりシート（ファイル）を提出しましょう。
*授業で習ったことを復習したいとき、何を使って学習すればいいかわからないときは、教科の先生が来たときに静かに手を挙げ、質問しましょう。

<生徒の声>

- （家庭学習）家で何をするのか迷わずできる。
- 何を学習したか振り返りやすい。
- 宿題をやったか、チェックできるようになった。
- △（5分間では）時間が足りない。
- △（移動教室や行事等で）ひまわりタイムの時間が削られるときがあつて困る。

【H30 全国学調生徒質問紙】



【江刺南中学校生活時程（一部）】

5校時	13:35 ~ 14:25	13:15 ~ 14:00
6校時	14:35 ~ 15:25	14:10 ~ 14:55
ひまわりタイム	15:25 ~ 15:30	14:55 ~ 15:00
清掃	15:35 ~ 15:50	15:05 ~ 15:20
終学活	15:55 ~ 16:10	15:25 ~ 15:40

<教師の声>

- ・5分間のひまわりタイムだったが、各学年によって学活に入る時間が微妙にずれ込んだり、逆に早かったりしたことが多く、教室に足を運んでも「ふられる」ことが何回もあった。しかしながら、生徒たちは毎日課題意識を持って家庭学習の内容を考え、できたことや身に付いた力をその都度言葉で記入しているので、その蓄積が成果を上げているのではないかと感じる。
- ・（設定した時間帯は）忙しいことが多く、余裕をもって学級を回ることができていない。家庭学習を見ると、（生徒が）有効活用している様子はわかる。
- ・年々、授業と連動した家庭学習を自分で考えて行う生徒が増えてきており、ひまわりシートへの記述も具体的に授業内容を振り返るものになってきている。しかし、落ち着いて1日の学習内容を振り返ったり、教員が教室を回り生徒と関わるような時間の確保には課題を感じる。
- ・落ち着いた雰囲気を取り組ませたい。教師が回るよりも6時間目の授業者が教室に残って見守る方がいいのではないかと感じる。本校なりの取り組み方を考え、修正していきたい。



取組の中から生じた様々な生徒の声や教師の声をもとに、校内研・職員会議等で協議を行い、必要に応じて方法を改善している。以下のような声から、テスト期間中のひまわりシートを改善した。

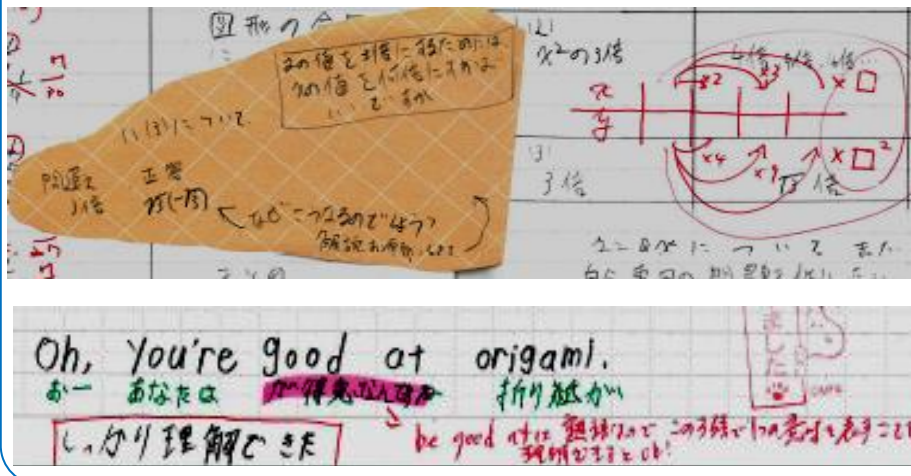
生徒1: テスト計画と(ひまわりシートに書いた)毎日の家庭学習の計画のどっちを見ればいいのか?
 教師1: 生徒は、テスト計画のチェックとひまわりシートのチェックで混乱。指導も大変!
 教師2: テスト計画と毎日の振り返りや家庭学習の計画を1つにまとめればいいのか?!

<ひまわりシート記述の様子(上:通常版のひまわりシート、下:テスト期間版のひまわりシート)>

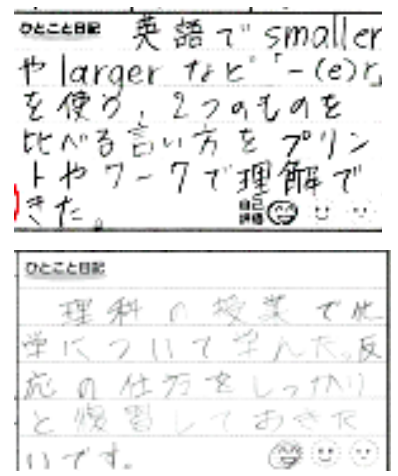
5/22	国・数・英・理・社 音(音)・技・家・美	はい、いいえ の二択です の二択です	社	スタ	- 英語のワークで今日 できなかった日を作る ことになりました
11月19日 月	国・数・英・理・社 音(音)・技・家・美	7-7 P.121-122	7-7	7-7	150分 A
11月20日 火	国・数・英・理 音(音)・技・家・美	7-7 P.88-89	7-7	7-7 P.88-89	家庭科

ひまわりタイムを中心に授業と家庭学習をつなぐ取組を継続したことで、家庭学習の内容を工夫したり、分かるまで取り組もうとしたりする生徒が多く見られるようになった。教師からも適切に助言、働きかけをすることで生徒の主体性をさらに伸ばしていきたい。

<家庭学習ノートへの記述例>



<生活ノートへの記述例>



4 学びをつなぐことで深い学びの実現に挑戦(学びをつなぐ視点からの授業改善)

(1) 教科間のつながり

○実践例: 数学・理科

3年生の「関数 $y = ax^2$ 」単元の導入において、理科の授業で行った斜面を下る台車の実験データを活用し考察した。実験経験から、生徒はイメージをもちやすく、学習内容の理解がスムーズになった。また、理科で学習したことをさらに数学で詳しく考察することに意欲が高まる生徒が見られた。

○実践例: 音楽・国語

3年生国語において詩「春に」を題材に学習したとき、音楽でも合唱曲「春に」に取り組んだ。詩の読み取りの学習と合唱での表現の学習がつながることで、深い学びにつながった。

<教師の声>

複数教科を教えていると内容の重なり気付くことができる。例えば、保健と社会において環境問題を学ぶことがあり、学習指導要領が横断的な学びをデザインしていることを感じた。現在は、職員室の情報交換で他教科とのつながりを探しているが、もっと教科間のつながりがわかりやすければ取り組みやすい。

5 成果と課題

(1) 成果

- 目標①、②、③について、各種調査質問紙結果により、全国・県を上回る肯定度であり、取組の成果を確認することができた。また、生徒アンケートの記述からも、生徒たちが「対話的な学び」や「学習の振り返り」を肯定的にとらえていることがわかり、それらが主体的な学びにつながっている。さらに、職員アンケートからもそれぞれの教員が工夫しながら取り組み、成果を実感している様子が見られた。
- 「ひまわりタイム」の取組は3年目を迎え、年々、取組を継続・発展させてきた成果が表れ、生徒・教師ともにそのよさを実感することができ、家庭学習の質が高まった。
- 各種調査結果の正答率（直近3年間の県比（県の正答率を100としたとき））

【H28～H30 県学調 正答率】

(H30 英語は英検 IBA)

	国語	社会	数学	理科	英語
H28	105	124	99	127	96
H29	121	111	116	123	111
H30	109	101	113	116	100

【H28～H30 全国学調 正答率 ()内は全国比】

	国A	国B	数A	数B	理
H28	108 (109)	110 (108)	101 (94)	108 (100)	— (—)
H29	97 (98)	97 (97)	99 (93)	97 (92)	— (—)
H30	109 (109)	113 (113)	110 (103)	121 (111)	103 (101)

- 各教科において、様々な視点から「学びのつながり」を実現する取組ができ、深い学びの実現につながった。また、各教科の取組を共有したことで、個々の授業改善につながった。

(2) 課題・来年度に向けて

- △ 諸調査結果では、どの教科も正答率が県平均を上回ったが、最上位層の割合は県と同程度かやや低い程度である。現在の取組を継続しつつ、最上位層へのアプローチが引き続き課題である。
- △ 「ひまわりタイム」については、成果を実感する一方、時程の設定や5分間という量に課題を感じる声も多い。取組の充実を目指し、時間設定や取り組み方法を修正する必要がある。
- △ 「学びのつながり」の実現について、まだ個々がそれぞれに取り組んでいる状態である。成果を実感する取組について、可能な限り全職員で取り組んでいく体制を構築していきたい。具体的には、「単元をひとまとまりとみた指導計画・振り返りを用いることで単元のつながりを実現すること」「縦断的・横断的なカリキュラムの作成を行い、教科間のつながり・他学年とのつながりを実現すること」等である。